



平和のこと



ノーベル平和賞を日本被団協が受賞!

みなさん、昨年の10月にノーベル平和賞を受賞した日本被団協をご存知でしょうか。正式名称は、日本原水爆被害者団体協議会と言い、1954年の第五福竜丸のビキニ水爆実験による乗組員の被ばくをきっかけに、1956年8月10日、長崎で開かれた第2回原水爆禁止世界大会の中で結成されました。

今日に至るまで日本被団協は核兵器廃絶に向けて、

核兵器による実相を世界に発信し続けました。現在、日本政府は世界で唯一の被爆国であるにも関わらず、現在核兵器禁止条約には参加していません。今年は戦後80年目の年です。

引き続きよどがわ市民生協は、日本政府に対して核兵器禁止条約への参加を要請し続けます。



令和6年能登半島地震・豪雨災害

よどがわ市民生協エリアへの避難者支援 期間延長

よどがわ市民生協の活動エリアへ一時的に仮住まいおよび転居して避難している被災者で、生協の利用を希望している人へ、個人宅配の手数料無料(1年間)措置を2026年3月3回まで実施します。

【お問い合わせ】 コールセンター 0120-727-263 月～金 9時～21時/土 9時～17時



介護と『生協10の基本ケア』学習会報告



12月14日(土)吹田さんくすホールにて、よどがわ市民生協川口副理事長と大阪健康福祉短期大学の小田センター長・上山特任准教授による介護の学習会を102人の参加で行いました。

2024年4月に組合員と職員を対象とした『高齢者福祉に関するアンケート』を実施しました。その中で、高齢期のくらしや介護で学習会したいと『介護保険制度』『生協10の基本ケア®』について寄せられた声を受けて開催しました。



介護を受ける自分自身を律して 介護社会への準備を

超高齢社会では、2035年には85歳以上が1000万人超で内50%以上が要介護。健康寿命が延びれば平均寿命も延びます。平均寿命男性81.4歳、女性87.4歳。ピンピンコロリは無理です。介護職員不足、事業所不足で家族介護は終わらない。

介護現場の人手不足 → 家族に依存 → 知識不足 → 虐待の増加

だからこそ、介護を学ぶ必要があります。介護に不可欠なのは、愛情より、根性より、『知識』です。今日から実践できる『生協10の基本ケア®=日常生活動作(身体を動かす)』。元気なうちから介護について正しく学び、今から備えを始めましょう。

【参加者の声】

- 家族との話しあいを全くしていません。お金を残しておけばなんとかなる訳でもない、現実を知った感じです。
- 『介護=しんどい』ではなく、今後は知識を学び、その時がきたらwith介護で生活していこうと思いました。
- 「まず相談」と、住んでいる市の地域包括センターへ相談できることが知れてよかった。
- 愛情をもってお世話をすればなんとかなると思っていましたが、知識がないことで誤った介護をしてはなんにもならない。知識が大切とわかりました。